

第 3 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年9月29日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第 3 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年9月29日(火曜日)

午前9時58分開議

午前11時7分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (5) その他

出席委員(14人)

委員長 溝口幸治
 副委員長 田代国広
 委員 氷室雄一郎
 委員 藤川隆夫
 委員 荒木章博
 委員 西 聖一
 委員 早田順一
 委員 高野洋介
 委員 濱田大造
 委員 橋口海平
 委員 河津修司
 委員 松村秀逸
 委員 中村亮彦
 委員 松野明美

欠席委員(1人)

委員 重村 栄

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 高口義幸
 政策審議監 奥 蘭 惣 幸
 観光経済交流局長 小原雅晶
 観光課長 満原裕治
 国際課長 磯田 淳
 くまもとブランド
 推進課長 成尾雅貴

教育委員会

教育理事 金子徳政
 教育政策課長 田村真一
 体育保健課長 平田浩一

総務部

人事課長 青木政俊

企画振興部

地域・文化振興局長 山本國雄
 地域振興課審議員 小牧裕明

健康福祉部

障がい者支援課長 井上康男

土木部

道路都市局長 手島健司
 都市計画課審議員 緒方 誠

警察本部

警務課長 林 修一
 交通規制課長 木庭俊昭
 総合企画室長 井野新輝

事務局職員出席者

政務調査課主幹 松野 勇
 政務調査課主幹 法川伸二

午前9時58分開議

○溝口幸治委員長 それでは、ただいまから第3回国際スポーツ大会推進特別委員会を開会いたします。

なお、本委員会に5名の傍聴の申し込みがあつておりますので、これを認めることにい

たします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思いません。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いいたします。

それでは、順次説明をお願いいたします。

○満原観光課長 観光課長の満原でございます。

本日は、6月委員会以降に実施しました取り組みについて御報告させていただきます。

前回以降の取り組みなどにつきましては、アンダーラインを引いております。その箇所を中心に説明させていただきます。

それでは、まず2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催関係につきまして、御説明いたします。

1 ページをお願いいたします。

表の下から2段目です。

8月26日に、大会に関する一切の準備及び運営を行う組織委員会を、一般財団法人として設立いたしました。

8月31日には、この法人の臨時評議員会及び理事会を開催いたしております。シンボルマークとあわせて、後ほど説明いたします。

2 ページ目をお願いいたします。

3の、平成27年度の取り組みの、(1)組織委員会の設立についてでございます。

大会に関する一切の準備と運営を行い、ハンドボール競技の発展に寄与し、国際交流の促進、大会の成功を目的に設立いたしました。

次に、一番下のポツでございますけれども、設立者でございます。これは、組織委員会の設立者は、世界ハンドボール連盟から大会運営の権限を付与されております日本ハン

ドボール協会でございます。拠出財産は300万円となっております。

また、県としましては、この大会を契機とした地域活性化に取り組んでまいりたいと考えております。前回御説明いたしました、いわゆるレガシーの形成についてでございますが、具体的な取り組みとして、10月には産官学金が一体となって取り組むおもてなし講習に関する研修会の開催を初め、外国人観光客を受け入れている民間施設等へのWi-Fiに対する補助金事業を行う予定でございます。

加えて、10月の体育の日においては、現在ハンドボールやラグビーなどに関するPR、スポーツによる健康増進に資する周知啓発事業を検討、予定しているところでございます。

今後とも、この組織委員会を中心に、行政と経済界、学校、県民などが一体となって開催準備を進めることはもちろん、スポーツ、観光、地域振興、健康づくりといったさまざまな分野における資源の磨き上げ等に取り組んでまいります。

3 ページ目をお願いいたします。

評議員、理事及び監事の一覧でございます。

8月31日現在、評議員3人、理事24人、監事3人と、役員などは総計30人で構成いたしております。定款上では、評議員は10人以内、理事は40人以内と規定いたしております。適宜拡大していくこととなります。

具体的には、今後、日本オリンピック委員会、国関係の機関、学識経験者やメディア関係者などの参画について検討していきます。

また、事務局体制としましては、業務執行理事として県では商工観光労働部長が就任しております。また、熊本事務局と東京事務局を置くことといたしております。今後、市町村及び関係団体に協力いただきながら、段階的に組織の拡充、強化を図ってまいります。

4ページ目をお願いいたします。

シンボルマークの決定についてでございます。これが、今回決定したシンボルマークです。

コンセプトは、火の国熊本の太陽の輝きを、女子ハンドボール選手の弾けるようなエネルギーに置きかえ、和をイメージとした筆のタッチで表現したということです。このシンボルマークの選定につきましては、大会開催の機運醸成などを図るため、去る5月20日から7月7日にかけて公募いたしております。応募状況は、海外3点を含めまして合計で338点、九州内からは約5割でございますが、全国各地から応募いただき、その年齢層も幅広い結果となりました。専門デザイナーからの応募も、約3割を占めております。第1次審査後に、商標の類似品調査を行っております。

最終審査では、最優秀賞1点のほか、優秀賞2点を選定いたしております。今後、開催する行事などで表彰する予定でございます。

5ページをお願いいたします。

去る9月12日にファミリーパレードを実施いたしました。これは、昨年ラグビー関係団体で行いましたが、今回はハンドボール、ラグビーの関係団体の共同開催で行いました。新市街から下通りへの街頭パレードで、女子ハンドボール世界選手権大会とラグビーワールドカップの熊本開催をPRいたしました。

ハンドボール関係では、県ハンドボール協会のほか中高生のハンドボール部員約200名が参加いたしております。

次に、今後のスケジュールについて御説明いたします。

広報関係として、ピンバッジ、のぼりなどの広報宣伝資材を制作いたします。

本年3月、富山県氷見市で開催されました春の全国中学生ハンドボール選手権大会などのように、各種大会での周知活動を継続して

行ってまいります。

また、リオ五輪のアジア予選が10月から11月に行われます。10月には女子の予選が名古屋市で、11月に男子の予選がカタールのドーハで開催されますが、全日本男子のアジア予選の直前キャンプ、これが熊本市で行われることが決定いたしました。10月9日から13日の間、会場は熊本市のアクアドームでございます。この期間中それから名古屋市で行われる女子のアジア予選を含めまして、熊本大会のPR活動を行ってまいりたいと考えております。

さらに、県立図書館でのギャラリー展示を開くなど、12月に行われる女子の世界選手権デンマーク大会などのイベントや行事にあわせて、集中的なPR活動に取り組むことといたしております。

3月には、組織委員会の理事会を予定いたしております。

組織委員会の設立を初め推進体制の強化などに取り組みまして、節目節目で到達点を確認し改善していく作業などを繰り返し、大会の成功に向けてしっかりと取り組んでまいります。

6ページ目をお願いいたします。

参考といたしまして、2015年デンマーク大会の概要について御説明いたします。

開催期間は12月5日から20日までの16日間でございます。

参加チームは、日本大会、熊本大会と同様24チームで、4都市4会場で開催されます。

この視察では、会場及び試合運営はもとより、宿泊、輸送、警備、開催地の装飾などを調査することといたしております。今後の基本方針等の参考といたしたいと考えております。

今回は視察調査となりますが、2年後の2017年のドイツ大会では、熊本のプロモーション活動を行っていくことといたしております。

女子ハンドボール世界選手権大会関係の説明は、以上でございます。

次にラグビーワールドカップ2019熊本開催についてでございます。

7ページをお願いいたします。

下から3段目、開催自治体協議会熊本推進協議会の設立について記載していますが、これは後ほど御説明いたします。

8ページをお願いいたします。

3の、平成27年度取り組み、(1)ラグビーワールドカップ2019組織委員会開催自治体協議会についてでございますが、下のほうの下線部分でございます。

7月15日に東京において、12開催都市19自治体の会議が開催されまして、開催自治体協議会が設立されました。

9ページをお願いいたします。

その開催自治体協議会の概要についての説明でございます。

この協議会では、自治宝くじ発行の15自治体に、3年間で60億円の増額支援に向けて、自治宝くじの発行を要望しているところでございます。

10ページをお願いいたします。

(3)本県における推進組織の設立についてでございます。

8月19日には、熊本の推進組織としまして、県、熊本市、県ラグビーフットボール協会などをメンバーとしましたラグビーワールドカップ2019熊本推進協議会を設立いたしました。

委員は記載の7名の方々に、知事が座長となっております。設立の当初から県ハンドボール協会会長に参画いただきまして、連携して取り組んでいくことといたしております。

(4)のファミリーパレードにつきましては、先ほど御説明したとおりでございますけれども、ラグビー関係では県ラグビーフットボール協会のほか、小中高校生のラグビー部員約200名が参加いたしております。

11ページをお願いいたします。

(5)の、今後のスケジュールについてでございます。

9月以降に、うまかな・よかなスタジアムのスタジアム運営計画検討部会を設置いたしまして、大会に向けてどのようなスタジアムにするかを検討してまいります。今後、施設整備など予算を伴うものは、運営の方向性などの方針が固まってきた段階で適宜報告いたしまして、御意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。来年3月には、スタジアム運営計画の骨子を作成する予定でございます。

また、[参考1]をごらんください。

この9月18日から10月31日にかけて、日本大会の前回大会となりますイングランド大会が開催されております。参加チームが20チーム、11都市13会場で熱戦が今繰り広げられているところでございますが、この大会の施設調査は組織委員会の視察プログラムを参考として行うことといたしております。

具体的には、スタジアムへの交通輸送、会場装飾、運営、観客導線、入場ゲート及び警備、駐車場などの運営のほか、都市装飾、ハンズオン、ボランティア、関連イベントの実施状況について現地確認を行ってまいります。また、その開催都市は本県と条件が類似している都市を対象といたしまして、ニューカッスル、グロスターを初めブライトン、リーズを選定したところでございます。

イングランドでのジャパンプロモーションを含めまして、視察内容につきましては次回委員会で報告する予定でございます。

なお、議会からの視察につきましては、10月8日から10月13日まで、ニューカッスル、グロスター、ロンドンを調査していただきます。

また、パブリックビューイングを9月23日に実施いたしました。会場は、南アフリカ戦の勝利もございまして、大変な盛況でござい

ました。あらかじめ準備いたしました240席を超えまして、追加で30席を用意したものの、立ち見をしていただく状況で、約400名の入場者がございました。

次戦が10月3日にありますので、ぜひ多くの方にお集まりいただき、決勝トーナメント進出に向けて応援していただければと思います。

今後とも、女子ハンドボール世界選手権大会とラグビーワールドカップ2019ともに、共催となる熊本市を初め、経済界、関係団体と協調しながら万全の体制で大会が迎えられますよう、大会開催に向けて準備を進めてまいります。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催関係の説明は、以上でございます。

続きまして、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の関係について説明いたします。

12ページをお願いいたします。

表の最下段にキャンプ意向調査を記載していますが、後ほどこれは御説明いたします。

14ページをお願いいたします。

6月1日に、インドネシアバドミントン協会のギタ会長に対しまして、熊本県のキャンプ実施の要請を行いました。県からは蒲島知事、高口商工観光労働部長、観光経済交流局長、県バドミントン協会からは会長ほか3名、そのほか県経済団体代表者などが参加いたしております。

インドネシア協会に対しまして、本県とインドネシアとのつながり、それから受け入れ環境における優位性をアピールいたしまして、バドミントンを通じた相互交流等の意見交換を行いました。

この会場では、この場ではお互いの交流の積み重ねを強めていくということを確認いたしましたところでございます。

この後の動きとしまして、17日の答弁で触れておりますけれども、インドネシア協会から

は県協会に対して、ジュニア選手の交流に向けた提案があったところでございます。今後は、バドミントンを通じた相互交流の取り組みについて検討し、その方向性などの方針が固まってきた段階で、適宜報告いたしまして御意見を伺いながら進めてまいります。

15ページをお願いいたします。

(2)の、市町村に対するキャンプ地等の誘致に係る意向調査結果についてでございます。

この調査は、6月15日に開催した市町村に対する説明会后、6月22日から7月3日までの期間で県内全市町村を対象に実施した書面調査でございます。

調査の結果、キャンプ地誘致を希望する市町村は18となりました。また、これらの自治体に対しまして7月から8月にかけて訪問して、首長さんたちとの意見交換を行っております。

なお、具体的な市町村名についてでございますけれども、関係競技団体との意見交換を行った後、市町村の意向を確認し発表したいと考えております。現時点では、回答いただきました市町村の検討の熟度に差がございまして、このような取り扱いをさせていただければと思っております。御了承をお願いいたします。

この調査における希望する競技や希望する国、地域についてでございますが、まず希望する競技は陸上競技を初めハンドボール、ラグビー等の14種目となりました。

希望する国、地域についてでございますが、全日本を含めたアジア地域を初め、欧州、北米、ドイツ、イスラム圏となっております。

今後、市町村と競技団体との要望等のマッチングを図りまして、方向性を整備していきたいと考えております。

具体的には、施設に強みがある競技、過去のキャンプ実施、実績などを踏まえまして、

さらに県出身の関係者からの情報収集を行うなどの、競合する自治体と本県の強み、弱みを比較検討いたしながら、どのような誘致活動を行っていくかを検討していきたいと考えております。

今後とも、国内外への情報発信、交流人口の増加など、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催によりもたらされる効果を県内に最大限取り込むため、キャンプ誘致に取り組むことをいたしたいと思っております。

2020東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致関係の説明は、以上でございます。

以上です。御審議のほどよろしくお願いたします。

○平田体育保健課長 体育保健課でございます。

16ページをお願いいたします。

4の、選手育成に関する平成27年度の取り組みの(1)の、東京オリンピックに向けた選手育成事業についてでございます。

競技団体の推薦に基づきまして、6月12日に選考委員会を実施し、6月30日に45人に指定書を交付し、現在、該当の18の競技団体と県体育協会による育成事業を実施しております。

育成指定選手は、世界ユース大会や全国高校総体等で上位入賞などの成果を残しているところでございます。

今後とも、県体育協会及び関係競技団体としっかり連携を図りながら、2020年の東京大会では、より多くの本県関係者が出場を果たし、県民の皆様方に元気と活力を与えることができるよう取り組んでまいりたいと考えております。

体育保健課は、以上でございます。

○井上障がい者支援課長 障がい者支援課で

ございます。

資料の17ページをお願いいたします。

障がい者支援課におきましては、(2)の東京パラリンピックに向けた選手の育成・強化に本年度から取り組んでおります。

最近の動きとしましては、7月30日に育成・強化選手選考委員会を開催し、20人の選手を選考し、9月11日に指定書を交付いたしました。また、8月29日と30日に、アカデミーキャンプを開催しました。具体的には、選手や競技団体、学校、保護者に対し、パラリンピック選手としての心構えやトレーニング方法、心理学や栄養学、アンチドーピングなどについて、一流アスリートや大学教授、医師などによる講習や選手のディスカッションなどを行いました。

今後は、熊本県障がい者スポーツ文化協会や競技団体と連携して、トレーニングや継続的な医科学支援を行い、2020年の東京大会に本県から多くの選手が出場できるよう取り組んでまいります。

パラリンピックに関する説明は、以上でございます。

○溝口幸治委員長 それでは、説明が終わりましたので質疑に入ります。

質疑は、できるだけ多くの皆さん方に質疑の機会を与えたいというふうに思っていますので、論点を絞ってできるだけ簡潔に質疑をお願いいたします。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かありませんか。

○松野明美委員 これから先のスケジュールというのは、わかりました。6月議会また今回もそうでしたけれども、ここ最近ではなくて過去の世界選手権レベルの誘致活動の実績を教えてください。

○満原観光課長 本県におきましては、97年の男子ハンドボール世界選手権大会が最後だったかと思えます。それ以外の世界選手権レベルの誘致はなかったかと思えます。

○松野明美委員 誘致活動じゃなく、キャンプ、合宿とか。

○満原観光課長 日本、韓国のサッカーのワールドカップはございました。そこでベルギーのサッカーチームが熊本県でキャンプをいたしております。

それから世界選手権ではございませんけども、熊本市のほうでことしは全日本の女子レスリングのキャンプが行われておりますし、それから北京のほうのオリンピックだったかと思うんですけども、熊本市においてドイツの水泳チームが熊本市でキャンプを行っております。

以上でございます。

○松野明美委員 実は、ことしの8月の後半に世界陸上が北京でございまして、本県出身の前田彩里選手がフルマラソンに出場しました。私は、お母さんとよく走っていたという思い出があるんですが、この北京の世界陸上の事前合宿が結構、九州には4県、海外の選手が合宿に来ております。

福岡がイギリスの選手、佐賀がニュージーランド、大分がポルトガル、宮崎がカタールの選手が来ているんですが、熊本は来ないようなんですが、これは誘致活動をして来なかったのか、それとももともと誘致活動をしなかったのか、どちらでしょうか。

○満原観光課長 今回の北京における世界陸上につきましては、誘致活動はいたしておりません。

○松野明美委員 実は私たちがもうでしたけ

ど、事前合宿をした場所に再び合宿を訪れるという場合が非常に、私たちがもうでしたけど、多いんですよね。

ちょっと調べてきましたけど、世界陸上の選手が四国の香川県の丸亀市に、デンマーク、フィンランド、アイスランド、エジプト、エストニア、スウェーデンとたくさんの選手が事前合宿に来ております。私は、実は夫の仕事の関係で半年間ほど、10数年前に丸亀市に住んでいたことがあるんですが、ほとんど田舎で、どうして交通の……悪いんですよね、非常にですね。こういうところに合宿に来たのかと思っているんですが、この繰り返しのおつき合いの中で、やはりワールドカップとかオリンピックとかにつながっていくと思うんですが、どうなんですか、この合宿の誘致というのは非常に、ほかの県に比べるとおくらしているような気がしてならないんですが、その辺はどんなふうに思われていらっしゃるか、お聞きします。

○満原観光課長 合宿の誘致等につきまして、確かに私どもが動きがなかったのかもしれませんが、基本的に受け入れる側の施設だとか、そういったものが影響いたしてまいります。

合宿をするところにつきましては、例えば世界選手権とかの大きな大会の前になりますと、自分のところのチームの調整が入って、時差を緩和するとかそういった部分があったりとか、例えば事前の1年、2年ということであれば、実力を強化するための合宿という形になってきます。受け入れる側とそれからやる側との熱意というのが合致しなければなりませんので、その辺が確かに委員おっしゃるように、合宿というのをいろんな繰り返していけば、事前キャンプの誘致につながることもあると強く思いますので、その辺については受け入れる側の自治体とともに検討していかなければならない課題だと思っております。

す。

○溝口幸治委員長 済みません、松野委員。
ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件の
質疑。（発言する者あり）

○松野明美委員 わかりました。

では、一言最後に。

ハンドボールとかラグビーとか単品でなか
なか合宿の誘致というのは、私は難しいので
はないかなとやっぱり思います。世界陸上と
かそういうのを生かしながら、ずっと東京オ
リンピック、パラリンピックまでにつなげて
いっていただければ、どんどんこの合宿に
来る海外の選手たちが多くなるのではないか
なと思います。

以上です。

○溝口幸治委員長 それでは、ハンドボール
選手権について何かございませんか。

○荒木章博委員 今度、男子の日本代表が、
直前にキャンプをするということで、ちょっ
と僕聞き漏らしたんですが、会場はどちらだ
ったですかね。

○満原観光課長 アクアドームでございま
す。

○荒木章博委員 アクアドームですね。それ
で、そのアクアドームは、要するにアクアド
ームですよ。水泳ですよ、あれは。その
上に床を張ってあるわけでしょう。

○満原観光課長 水泳から今度スケートに移
る時期がございます。その間を見まして、専
門的にタラフレックスというものらしいん
ですが、そういったものを敷き詰めて会場とし
て使うということでございます。

○荒木章博委員 実は私、これ剣道で使った
ことがあるんですよ、この時期にですね。

今、中間にですね。剣道の全国大会をやっ
た。そのとき、床のかたさが非常によくな
ったんですよ。そういうところは、やっぱり
このハンドボールというのは私も大会場に行
って、滑らないような、やしとかね。べちゃ
べちゃするんですよ、汗とね。あの中に入
ったことがあるんですけどね、世界大会の
とき。そういったところの何というか、弾力性
とか何とかは調査を、できるだけやっぱりそ
の本会場に合うような形でやったほうがいい
と思うんですよ。だから、剣道したとき
は、全くできないんです、あそこの場所
では、かたさの関係で。そういうところは、ち
よっと調査をされているかなと思って、ちよ
っと心配している。

○満原観光課長 先ほど、タラフレックスと
いうものを使うということを申し上げまし
た。競技によりまして、おっしゃるように基
準といいますか、そういったものが決まっ
ているみたいです。

今回のアクアドームで使う床といいます
か、フロアにつきましては、その基準に合致
するものを入れているというふうに聞いてお
ります。

○荒木章博委員 それなら、いいんですね。
いざ来て体育館みたいな感じでやって、それ
がちょうど強度に合わなかったりとか、足に
負担がかかったりとか、そういうことがな
いように調査をして、それをタラフレックスか
何かそういうのでされるということであれば、
非常にいいんじゃないかなと思うんです
よね。

ただ、それはまた新たに持ってきてされる
んですか。既存にあるものでされるんです
か。

○満原観光課長 これは、新たに持ってきて、あそこにはめてやるということを聞いています。

○荒木章博委員 予算がかかりますけど、それはやらないかぬでしょうね。わかりました。

以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 この事前キャンプに関してなんですが、一般の人が見られるという、そういう時間というのはあるんでしょうか。

○満原観光課長 このハンドボールについてでございますか。

今のところ、そういった遮断するというのには聞いておりません。

事前に、聞いたところによりますと、そういった交流といいますか、というのは本県の出身の岩本さんという、97年ハンドボール大会のときのエースの方が監督となっておられまして、そういった地元におけるハンドボール普及ということも熱心と聞いておりますので、そういうのは、調整しながらだと思えますけれども、その辺できれば要望していければと思っております。

○溝口幸治委員長 それでは、次にラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑を受けたいと思います。何かございませんか。

○高野洋介委員 ラグビーに関してですけど、今大変盛り上がっていますよね。南アフリカ戦、ラグビー関係者からすると、あれはあり得ない結果になったというような表現もあります。もうそのとおりだと思います。

今、今回の日本代表の選手たち一人一人

が、本県出身が残念ながらいらっしやらないですね。

やっぱり、それは残念なことだと思いますけども、今からぜひ皆さん方に考えてほしいのは、いろんな警備関係も大事でしょうけど、一番大事なことは、やっぱり熊本に来てラグビーの試合をされるときに最高のパフォーマンスができるかできないかが一番大事だと思っています。

それを皆さん観客は見に行くわけでございますので、選手の体験といいますか、選手の声というのをどういうふうな形で反映されるおつもりなのかなというふうなことをお伺いしたいんですけども、なかなか答えにくいんですけど、例えば私も橋口先生も元日本代表の知り合いがいるんですね。もう体がかくて非常にいい人なんですけど、そういう人たちのネットワークを通じて、イングランドで今試合してますけど、そういったところでの経験とか選手の目線としてのこの会場の設営だとか、そういうことをぜひ皆様方には細部にわたっていろんな集約をさせていただきたいと思うんですけども、そういうお考えというのはあるのかなのか、お尋ねしたいんですけど。

○満原観光課長 今、高野委員の御質問につきまして、基本的に会場等につきましてはいろんな要素があるというのは重々わかっているつもりでございましたけども、選手の目線という、確かに大事なところでございます。

組織委員会のほうと会場につきましては、いろんな場で意見交換を行う形をとりたいと思います。当然ながら、選手のみならず観客の目線、いろんな方に楽しんでいただくということが大事でございますので、そういった経験、本県の職員等も視察、それから31日までの大会の中で視察して勉強していくところでございますけども、それらも含めましてそういった意見を言っていけるように、組織委

員会のほうに働きかけていければと思います。

○高野洋介委員 先ほど紹介した元日本代表の方が、今、子供たちにラグビーを教える普及活動をされているんですね。だから非常に友好的だし協力的なんですよ。その人を通じて今の日本代表の選手の話も聞けるというふうな話を、きのう電話本人とですね、確認しておりますので、もし皆さん方のそういう思いがあったら我々に言ってもらえればおつなぎもできますので、ぜひ遠慮なしで議会と執行部が一丸となって今回の大会をぜひ盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ御配慮よろしくお願いいたします。

以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○荒木章博委員 ここにも書いてありますけど、宝くじの要望ということで、やっぱり財源を確保するにはそれなりの、自治体だけではなくてサッカーくじでも、今ラグビー、非常にブームが上がっている最中ですから、そういうところの、要望されるというふうに書いてありますけど、2点。ちょっとその中で1点は、そういう宝くじやサッカーくじなど、そういうのを将来考えていくような傾向はあるんですかね。ちょっと、そこをお尋ねします。

○満原観光課長 ラグビーにつきましては、ここに書いてありますとおり通常の発行予定に加えまして追加予定で約150億円の発行をして、大体発行した4割がお金としてこっちは入ってくるというのが一般的でございます。150億円の4割で60億円、それが各開催都市のほうに向けられるというふう聞いております。そういう予定ではございます。

ハンドにつきましては、前回97年大会のと

きには発行いたしておりません。西日本宝くじの中でハンドボールの意匠を使ったりPRをする段階にとどまっています。

今後、開催につきましてはまだ経費というのはなかなか見込めないところがございますけれども、そういったところも考えますと、いろんな手を使って経費についての削減というのは考えなければいけませんので、その宝くじ発行とかいったところも一つの検討材料ではないかとは思っています。

○荒木章博委員 今、収益は4割でどのくらいと言われたですかね。

○満原観光課長 60億円。

○荒木章博委員 60億ですね。それを各会場で試合ごとに分けるという。

○満原観光課長 配布の仕方は、まだちょっと決まっておりません。ただ、60億円は今の予定でございます、なっております。

○荒木章博委員 はい、わかりました。

実はハンドボールのときも、私はこれを提案したんですよ。そうしたら、そういうのは時期尚早と。そういうスポーツで利益を上げるのは余りよろしくないというようなことだったけれども、その後何かサッカーくじがどんと出てきたんですよ。

ですから、やっぱりこういうときは、やっぱりそういう関心がある人、そういう人たちのためにも、また機運を盛り上げるためにも、この導入をして積極的に対応されるべきじゃないかなというふうに思いますので、引き続きこの点は、貴重な財源になりますから、全国からもまた世界からもですね。よろしく願いしておきます。

もう1点。先般もちょっと私は申し上げたと思うんですけど、2カ月しかたっていないか

ら進捗状況は難しいとは思いますが、スタジアムが一応3万2,000人ということで、4万人を目標としてベンチシートになるのか、立ち見になるのか。スタンディングの立ち見でもいいのか、そういったところのベンチシートでいいのか、そういったところの情報収集というのは何か変わりはございますか。

○満原観光課長 6月の委員会以降、調査等をかけております。ただ、これが仮設とあるいは本体のほうに工事してふやすとかいったものについて、詳細にまだ詰めきれてない状況でございます。

大会会場として、例えば委員会の場でカテゴリーA、B、Cという言い方をしていますが、そのカテゴリーAの要素の中には、単なる収容人員だけじゃなくて、ホスピタリティー施設、どうもイングランドのワールドカップ等でわかったんですけども、非常にスポーツを楽しむ文化というのがございまして、それを会場外で、例えばファンゾーンを設けて、そこで入れない方々が楽しむとか、そういったホスピタリティー施設の問題、それから受け入れるマスコミの数とか、そういったものも要素で入ってきているということがわかっております。

そういったものを含めまして検討しながら、できるだけ効率的でなおかつ最大の効果を上げられるようなことを目指していきたいと思っております。

以上でございます。

○荒木章博委員 今言われましたように、カテゴリーAのときにはどうするのか、非常に難しい点も今聞いたところによるとあるかもしれませんが、できるだけそれに近い形の中で、一試合でも多くの感動を、やっぱりAクラスの感動を、Aクラスというかカテゴリーのチームのやつを少しでも取れるように努

力を今後もまたしていただきたいというふうに思っていますね。

それと、全体的に国立競技場が3,000億かなんかにずっと膨れ上がったんですけどね、競技場自体も全体的に、今度の視察でもナショナルのスタジアムあたり見学に行かれる、委員会で見学をするということも聞いておりますけど、韓国あたりは何か3つぐらいあるんですよ、あんな大きいやつが。

だから九州で1つ、へそである熊本に要望するようなくらいの、やっぱりそういう施設づくりも今度要請をされればいいんじゃないかというふうに思います。これは要望ですので、今後ともよろしくお願いします。

以上です。

○橋口海平委員 先日あったスコットランド戦のパブリックビューイングにおいて、9時半が開場で10時半が試合開始だったんですが、そのときに結構10時ぐらいに来た方たちが上に上ることもなく下のほうで、もういっぱいですと帰ってくださいと言われてという話を結構聞いているんですよ。そういうのに対して何か工夫をすとか、そういう考えというのはあるんでしょうか。

○満原観光課長 9月23日のパブリックビューイングにつきましては、南アフリカに勝ったことが追い風となりまして、想定以上でございました。当初ラグビー関係者だけなのかなというようなことで心配いたしておりましたが、問い合わせがホテルのほうにいっぱいございまして、それで急遽、整理券を、早くから並んでいた方がいらっしゃいましたので、整理券を配るという形で対応いたしました。

最初は席だけを、座る席、指定席決めまして、それだけでおさめようかなというふうな形で考えていたんですけど、それだとちょっと持ちませんので、もう失礼ながら立ち見席

でという形で両側にも入れていっぱいいっぱい、あの会場だけでいっぱいいっぱいになりまして、それで400名と。今回も、ちょっと10月3日サモア戦ではございますけども、ちょっとその辺は工夫しながら早め早めの対応をしていきたいと思えます。

前回は少し、先着50名の方に来ていただくように、ちっちゃなグッズとかを差し上げるという形にいたしております。

今回いろんなことありまして、問い合わせが多いかと思えますので、早めに会場等の整理を行いたいというふうに考えております。

○橋口海平委員 土曜日となりますので、多分多くなると思えますので、対応のほうをよろしく願います。

○溝口幸治委員長 ほかにございせんか。

なければ、次に2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑はありませんか。

○荒木章博委員 今、松野委員がいいことを僕は言われたと思うんですよね。

こういうオリ・パラを含めた、こういうオリ・パラの大事なキャンプ地ということについて、過去にどういったところを、そういう国際競技の中のキャンプを選んできた、熊本を選んできたか。そういうところとのやっぱりパイプがあるはずだから、そういうところと交渉をすると。

どうも執行部のほうには、市町村と相談をしながらやる、競技団体と相談しながらやるということだけど、なかなかその先に進んだような雰囲気には私には見えないんですよね。そここのところについて、そういう意見についてどういうふうに対策としてとられているのか、ちょっとお尋ねしたいと思えます。

○満原観光課長 キャンプ誘致につきましては非常に、確かに委員がおっしゃる、松野先生がおっしゃるとおり、いろんなやり方もあるというのはもう承知いたしております。

受け入れる側としての施設がどれだけやれるかというのは、実は競技団体とか施設を有する市町村、自治体の熱意というのが非常に大きなものがあります。それがなければ、なかなかその先へ進めないというところもございまして。

ただ、そうは言っても、いろんな大会、例えば陸上の競技大会等がございましたので、そういったものも含めてきっちりやるとしか申し上げようがないんですけども、ただ意見を伺いながら、実際首長さんたちの意見交換が終わりました。冒頭申し上げましたように、各自自治体の熱意といえますか、それにちょっと差がございまして。競技団体においても差がございまして、その辺をうまくマッチングすることで、いろんな可能性が広がると思っておりますので、もう少しお待ちいただければというふうに思っております。

○荒木章博委員 お待ちいただくというのはわかるんですけどね、これは最大の機会ですよ。そして、また熊本を売っていく機会だと思っておりますよね。

ただ、そういう過去に例えばベルギーのサッカーが熊本でキャンプをした、そういう実績が残っている。そういうところと交渉しようと思っても、まだこっちの市町村とやり合う、話し合いをやっています、競技団体とやっていますと。競技団体とのパイプはないんですよ、実際言って。

そういう特殊な状況の中で、サッカー協会の日本協会のやっぱり役員さんとのパイプの中でこれは生まれたことだから、そういうところをちゃんと、やっぱり聞こうという気持ちもないですよ。いや、そんな話を聞こう

ということもないですよ、この委員会と言うだけで。どういう情報がありますかと。前回言ったときに、どういう情報があるんですかぐらいは、僕は来てくれるかなと思ったんですよ。

インドネシアもそうでしょう。今後来ると言ったら、もう来ぬじゃないですか、延期になったという。本会議場で、ちゃんとやりますと言うたって、国際的な問題は難しいんですよ。城下議員に答えて「やります」と言って、協定を結びますと言ったが、もう、あと2週間もないのに断ってきているんですよ。

何のために大量のお金を使って、知事公室の予算を使って行っているんですか、アジアを開く、アジア戦略と言ってから。公室の予算でやっているじゃないですか。そして70人も80人も向こうで招待を受けているじゃないですか、夕食会を、約100万近く。

だから、やっぱりそういうところをぴしゃっと。やっぱり国際のものを持ってくるというのは難しいですよ。市町村だけの考え方じゃないんですよ。だから、私はちょっと厳しいことを言うようだけど、その庁内でどんな対応をしていくのか、やるのか。絞ってやるのかということを考えていかないと、私はこれは絵に描いた餅になる。

私のこういう思いが、あ、違うだったね、ちょっと余り深く考え過ぎたねと、それで終わればそれでいいですよ。そういうところの交渉をやるうとも思わないじゃないですか。だから、こちらモンゴルのバドミントンなんか協力してやられたりされているし。そういうところと交渉をやったりとか、アイデアが幾つかあるはずじゃないですか。何でそれを切り開いていかないんですか。今のその態勢じゃできませんよ、幾ら見ても。部長どうですか。

○高口商工観光労働部長 確かに、今荒木委員御指摘のように、海外の各国と交渉という

のは非常に難しいというのは、我々も今回のインドネシアの件も含めて実感しているところでございます。

御指摘のように、これからキャンプの誘致していく中で、働きかけていくべきところの絞り込み重要だと思います。それについては、もちろん我々は我々で、その地元の市町村なり競技団体との受け入れ体制の整備ももちろん大事でございますけれども、一方では、どこに働きかけるかということについては、それ以上に大事なところがありますので、さまざまな方からいろんな御意見は聞いていかないと、私たちも限られた情報しか持ちませんので、ぜひ今御指摘のことも含めて、いろんな方にまた働きかけをしながら、なるだけ頑張りたいというふうに思っております。

○荒木章博委員 今部長言われたので、よくわかりましたので。

それで、友好協会とかいろんなところがやっぱり、大使館とかそういうところの窓口との折衝があるわけですので、そういったところともやっぱり頻繁に、東京事務所を通じて御努力をされるようにですね。

だから、私は失礼な言い方をしているかと思うんだけど、せっかくこういう大事なパラリンピックの事業とかそういうがあって、今、松野委員がちょうど質問されたから、これ先にしちゃいかぬね、パラリンピックのときせないかぬことだけど、先に言われたから僕はちょっと屋上屋の気持ちで言ったかもしれぬけれども、そういう点はぜひお願いしたいと思ひまして、終わります。

以上です。

○松野明美委員 関連して若干。

先ほど香川県の丸亀市の話をしましたけれども、ここは21カ国に呼びかけをして、スウェーデンチームがやっと事前合宿をしますよ

という言葉をいただいたと。

もう21カ国中に1カ国ぐらいなんですね、来るのが。多分、やはり一生懸命20回ほどのメールのやり取りとかを重ねてこういう結果があらわれますので、やはり私は熱意がもう少し足りないのかなという感じがいたしますので、よろしく願いいたします。

終わります。

○溝口幸治委員長 ほかに。

○氷室雄一郎委員 15ページの、先ほどの御意見とも同じなんです。誘致を希望する市町村、温度差があって今回は公表しなかったという、何かそういうニュアンスの話をされたんですけども、1つは各市町村の意識も濃淡があると思うんですね。

だから、県がやっておられる部分があると思いますけども、その辺もやっぱり配慮しながら、オール熊本という観点からやっぱりやらなければ、県が音頭をとってやっていくということよりも、先ほどいろんな御意見がございました。やはり総合力で取り組んでいただきたいということが1点でございます。

じゃ、あと手を挙げている市町村は何か温度差があって公表できにくいというお話だが、そういう市町村に対しては、やっぱり県全体としての取り組みでございまして、もう少し配慮をしながら、次はきちっと出していただければと思っております。

2点目は、希望する競技、これ以外の競技は上がってきていなかったのかということですが、非常にいろんな特色のある市町村また競技もあるわけでございまして、その辺はどうなのかということで、もう少しやっぱり、さまざまな御意見も出ましたので、そういう総合戦力の上からやっていかなければ、県としては一生懸命やっておられると思いますけども、その辺の効果が、相乗効果を生み出すような取り組みをやっていかなければ、

非常に難しいと思うんですね。それについて、ちょっと御意見を。

○満原観光課長 まず市町村につきまして、熱意というのがあるという、非常に差があるのは1つあります。例を挙げれば、自分のところは国体等もやっているんで手を挙げてちょっと見ようかなという程度から、それから、ちょっと自分ところの競技の地域の状況でちょっと挙げましたとか、そういう形で挙げたところがありましたものですから、ちょっと公表を控えてくれというところもございましたので、こういう扱いをさせていただきました。

中には、ぜひ取りたいということで、ちょっと動きたいというところもございましたので、そういったところとは連携をとっていきたいと思いますが、競技につきましてはすべての市町村に調査をいたしまして、出てきた結果がこれでございます。

熟度の差というのがございますし施設の差というものもございますので、そういったことをきちっと踏まえながら、まず押さえていくという形でこれをやっておりますので、具体的な形で出せるように努力してまいりたいと思います。

○氷室雄一郎委員 大体わかりました。

そういう意味で、各市町村の施設の問題等いろいろあるから、そういう濃淡はこれはもう当然あると思うんですけども、そういう中でもやっぱり全県挙げてまたオール熊本という立場からこれから進めていただければと思っておりますので、要望しておきます。

○早田順一委員 きのうの報道で、オリンピック競技が5種目追加になるだろうということでやっていたけども、正式には来年の8月ですね、リオオリンピックで決定されるということでありましたけれども、確認なん

ですけれども、この5種目が追加された場合に、強化選手への助成とかそれから会場の誘致、キャンプの誘致、これは追加されるんでしょうか。

○平田体育保健課長 現在、体育保健課のほうで取り組んでおります選手育成事業は、現在のオリンピックの競技種目を絞ってやっておりますので、来年度また決まりましたら加えて取り組みを始める方向で考えたいと思います。

○早田順一委員 今時点で日本としては、その5種目を上げていますよね。だから、今の時点で考えるのか、それとも正式に決まるまで待っておかないいけないのか、その辺はどうなんでしょうか。

○平田体育保健課長 現在ここでという明確な答えは持っておりませんが、先生からの質問でございますので、その方向性もまた考えていきたいと思えます。

なお、現在そのほかの競技も国体の種目あたりに、オリンピックの競技はないけども国体の種目あたりになっている競技もございますので、そういった中でも取り組んでいるところもあります。

○早田順一委員 できれば、当初予算だと半年ぐらい遅くなるから、予算がつくのが。だから8月なら9月くらいでも補正で上げるぐらいの気持ちで、しっかり選手を強化するように。

今回の5種目というのは、競技というのは、やっぱりオリンピックでメダルが取れる候補ということで上げられていますから、ひょっとしたら熊本県選出の選手が出る可能性があると思うんですね、高いと思うんですよ。

だから、その辺もしっかり考えていただい

て、早めに予算づけをしていただければと思います。よろしくお願いします。（「関連で」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 松野委員、関連で。

○松野明美委員 関連で。

この追加種目の5種目の中に、スポーツクライミングというボルダリングの、きのうもテレビを見ていましてニュースで。うちの中1の息子が、もうしゃんむり連れて行ってくれと。県内のたしか二、三カ所ぐらいしかこのボルダリングをする場所が少ないので、こがんとところに行かなんとかかなと思いついたんですけど、非常に子供から小さい女の子、小学校の低学年だったと思います、女の子が登っているんですね。あ、これから先に人気が出てくるのかなと非常に思いました。

やはり子供たちの育成としまして、非常にやっぱり体力の低下が今問題になっているのではないかと思う中で、できれば体育館とかにああいう遊具が設置されれば、楽しみながらスポーツのあれが、体力の増進ができるのかなというようなことを、また感じました。

来年決まるんですが、整備や環境が、この5種目はなかなか整っていないところが多いので、この整備をしましたら海外の選手が日本に合宿に来るということもある、そして人口拡大にもつながっていくのではないかなと思いますので、そのあたりの検討のほうもよろしく願いいたします。

以上になります。

○西聖一委員 それぞれ意見が出て、大変な期待が県にかかっているんですね。やっぱり事務局の国際オリンピックの件もそうですけど、東京オリンピックも。何か体制がしっかりしてないとか、責任の所在とかよく言われていますけども、これに向けて同時期に3つの大会があるわけですから、人事課とし

ては来年は局体制なり部体制を組むような感じで進めていかれるのでしょうか。

○青木人事課長 人事課でございます。

委員おっしゃったとおり、この3つの案件を、このチャンスを最大限に生かすべく、体制をしっかりとっていききたいというふうに考えております。

具体的な体制につきましては、今関係部局と検討中でございます。具体的にはこれから申し上げていくということになるかと思いますが、検討はしっかり行っておりますので、以上申し上げておきます。

○溝口幸治委員長 青木課長、最近強化しましたよね。

○青木人事課長 最近は、年度始まりに観光課の中に1つの専任班、4人体制でつくりました。

いろんな案件立て込んでまいりましたので、まず9月時点で2人増員を行い、なおかつ10月に入ってまた2人増員を図るということを考えております。

○西聖一委員 少しずつ体制整えるんでしょうけど、平成9年の男子ハンドボールのときが、職員が、行政が6,000人、警察職が2,700人ぐらいいたんですよ。2年後の国体のときには大体同数6,000人と2,700人。現在は行政で4,200人と、警察が3,400人。警察はちょっとふえていますけども、そういうすごく職員が減っている中で、これから皇室行事、海外の対応、そして国内対応、あらゆる部門に対応する人数を現在の職員から捻出するのは大変な作業だと思うんですよ。職員の中からも、もう男子ハンドボールのときも、もう死ぬような思いをしたという経験の声も聞こえてくるし、県行政だけではとても賄えないと思うんですけど、そこら辺のアイデアか何

かはちゃんとお持ちですかね。

○青木人事課長 来年度以降の定員管理につきましては、また今後検討ということでございますけれども、3つのこの案件、できるだけ効果的に進めるということを前提に所要の体制をとっていくということを考えております。

これは、もう当たり前の話でございますけれども、人員の集中配置といいますか、分野、分野、事業の見直し等も行いながら、効果的な人員配置等を図っていきたくというふうに考えております。

○西聖一委員 4年後は成功させないといけないという大きな目的がありますけども、県の一般行政もちゃんとしていかないけませんので、そこら辺の配慮はしっかりよろしくお願いたします。

○溝口幸治委員長 ほかにございせんか。

○濱田大造委員 キャンプ誘致に関してちょっとお聞きしたいんですけど、海外からインターネットの時代ですので、熊本県でどういう施設があつてどういう市町村があつて、どういう競技ができますよと、そういうのをわかりやすく解説できる海外向けのそういうサイトを開設したりは、そういう予定とかあるのかなのか、教えてください。

○満原観光課長 まずオリンピック組織委員会のほうが既にそれをつくるということで動いていまして、当然、熊本県の施設等もそこに入っていく予定になっております。

それは、非常に基準が厳しゅうございます。そういった分を含めてキャンプとなりますと、競技基準を満たさなくてもできる場合がございまして、熊本県の施設等も含めて、今度は全国知事会のほうでそれを発して

いくという形で予定いたしております。

以上でございます。

○藤川隆夫委員 2019年に向けてハンドボールとラグビーに関して開催に向けて、ある意味県内、県外に対していろんな形での周知活動をしていかなければいけないというふうに考えております。

その中で、メディア等を使ったプロモーションのこれから先の計画等についてあれば教えてください。

○満原観光課長 具体的な計画というのは、まだでき上がっておりませんが、例えばハンドボールにつきましてはシンボルマークができました。

そういったものを利用いたしまして、先ほど冒頭御説明いたしました中に、例えばハンドボールのアジア選手権とかいうのがございますので、そういったところも含めてPRしていくということをやりたいと思います。

それ以外も、ホームページ等も一応検討していきたいと思っております。おっしゃるように、いろんなメディアがございますし、それを効果的に利用することで、熊本県で行われるんだということをアピールしていきたいというふうに考えております。

○藤川隆夫委員 今おっしゃったとおりですね。おそらく知っているのは、ごく限られた人間だろうと思いますよね、ここで熊本で2019年にあるということ自体。であるのなら、多くの方を熊本に呼び込むためには、逆に言うと県外のプロモーション活動というのは極めて大事になってくると思いますので、そこを徹底してやっていただければと思います。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○松村秀逸委員 2019年の世界大会に向けて、せんだって一般質問でも道路の件をちょっとお話ししました。

道路都市局長もおいででございますので、熊本市との話し合いの中で、西環状線アクアドームに向けた人の流れは、恐らく福岡方面から流れが多くなると思うんですね。

そうすると、やはり大会に向けて相当交通の渋滞があるかと思えます。それに向けて平成28年の末には、途中までは開通しますが、その先がまだ正式な時期はわかりませんが、その辺の完成時期と市との話し合いというか、連携していただいて、それまでに開通するような形を持っていただければ非常にいいんですが、そこら辺のお話し合い、どんな状況を教えていただければと思います。

○手島道路都市局長 現在、熊本県と熊本市では、道路関係については意見交換等を行っておりますが、今の委員のお話のような形で、アクアドームへの入り口という観点での話を今までしたことございませんので、委員の御意見を伺いましたので、それを踏まえて今後はちょっと熊本市ともお話をしていきたいと思えます。

ただ、私どもの把握している状況では、完全につながるというのはちょっと、現状で着工してない部分もございますので、違う行き方にはなるのかなと思っております。

○松村秀逸委員 私が思いますには、やはり全国、世界から来られて、せっかく来て車の渋滞で会場に行くのに、試合の時間に合わないとかいろんなのがあるといけないと思うんですね、せっかく来られた方のイメージ、それに合わせた観光もあると思えます。

ぜひそこら辺、あわせて2019年に向けた最低限の道路網の整備をぜひ熊本市が直接でございますので県があればありませんが、ぜ

ひそこら辺を一緒になって熊本市と連携して
いただいて完成をできるような形で、渋滞緩
和になるような努力をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。
なければ、これで質疑を終了いたします。
次に、閉会中の継続審査について、お諮り
いたします。

本委員会に付託の調査事件については、審
査未了のため次期定例会まで本委員会を存続
して審査する旨、議長に申し出ることとして
よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのよ
うにいたします。

次に、その他に入りますが何かございませ
んか。

○荒木章博委員 せっかくブランド推進課か
ら来ておられますから、くまモンのこのスポ
ーツいろんなこの大会のイベントに向けた取
り組みというのは、何か今考えておられます
か。

○成尾くまもとブランド推進課長 今くまモ
ンにつきましては、日本国内のみならずアジ
ア、台湾、香港、それから最近ではタイのほ
うでもブレイクしております。

それから、私ども3年前から、いわゆるく
まモンさらに熊本県の知名度を高めるとい
うふうなことを考えまして、フランスのジャ
パンエキスポあたりにもくまモンを出して、さ
まざまなイベントステージにも立たせるとい
うふうなことをやってまいっているところで
ございます。

おかげさまで、フランスを中心に、少しづ
つですけれども、くまモンの認知度も高ま
り、あわせて熊本県の認知度も高まりつつあ

ると考えております。

そのような流れの中で、今回いわゆる2019
年のラグビーの試合が熊本でもある、それか
ら世界女子ハンドボールも熊本のほうでの開
催が決まったというふうなことを受けまし
て、これまで培ってきました、くまモンの認
知度向上ということを多くの皆様、世界中の
皆様に、これを使いましてくまモン、熊本と
いうものを知っていただく中で、先ほど藤川
委員からも話がありましたけれども、認知度
向上という意味において、くまモンを積極的
に活用してまいりたいというふうな考えでは
おります。

○荒木章博委員 いや私が言いたいのは、く
まモンの認知度ということで熊本を知るとい
うことじゃなくて、競技団体の取り組みの中
でくまモンをどう活用していくかという思い
があるんですね。

ですから、例えばバドミントンならバドミ
ントンの格好をすとか、それとか野球なら
野球の格好をすとか、そういうバッジとか
タオルとか、そういう種目のくまモンの姿を
ポスターにすとか、そういうやり方とか、
何かそれと違った形で考えておられるのかと
いうことを、ちょっとお尋ねしたいんです。

○成尾くまもとブランド推進課長 はい。大
変貴重な御意見だと思います。

スポーツ大会の場合には、よくピクトとい
うものもつくられるように承知しておりま
す。何か前回の東京オリンピックのときが初
めてだったというふう聞いておりますけれ
ども、そういうふうなことも私ども念頭には
ございますので、そういうことも含めまし
て、くまモンを活用した展開につきましては、
委員の御意見も踏まえましてこれから考
えてまいりたいと思っております。

○荒木章博委員 くまモンの認知度というの

は、もう非常に各課で、その課で努力をされて、ヨーロッパに行かれたりフランスに行かれたり、その観光局長もわざわざ忙しいのにフランスまで行って非常に、くまモンに負けぬように局長も活躍されたと聞いていますけど、何かやっぱりくまモンを使ったユニフォームとか、そういう何か動きを発するようなどの、一つの全体のやつで誘致活動をやられたらいいんじゃないかなというふうに思う。要望ですから回答はいりませんので、よろしくお願ひします。

終わります。

○溝口幸治委員長 ほかにありませんか。

○高野洋介委員 済みません、余り国際スポーツと関係なさそうでありそうなことを少し話をさせていただきますけども、皆さん方の中で、八代に世界記録を5つ持っている人がいるんですね。92歳の守田満さんが世界記録を5つ持っていらっしゃるんです。陸上の中で世界記録を5つ持っている方というのは、多分いらっしゃるんじゃないかなというふうに思っています。

きのう、八代市民栄誉賞の祝賀会に参加をいたしました。守田満さんというんな話をさせてもらったら、ずうっと努力されているんですね。90歳を超えても陸上されているという意欲から世界記録を持っているということから、私はスーパーおばあちゃんと言っているんですね。そのスーパーおばあちゃんというんな各団体に記録を残した人とどう違うのかなというふうに考えるときに、余り私は変わらないような気がするんですね。逆に、92歳で走る意欲があられる方のほうがすごいんじゃないかなと思うときもございます。ただ、県当局からすると、なかなかピックアップされない。マスコミのほうは、国外の方からも何か来るらしいんですね。10月の大会が今シーズンが最後の大会というふうに言われ

ていました。それが終わったらオフなので、それからまたピックアップされることはほとんどないんですけど、毎日のように努力されているんですね。ですから、もう少し県当局挙げて、そういう人をピックアップしながら、スポーツというのはいいいんだよということも、広報というものもしっかりやらしてもらいたいとは思いますが、答弁するところがどこかわかりませんが、まあ答弁は要りませんが、ぜひ皆さん方そういう意識を持って今回の3大スポーツに向けて取り組んでもらえればなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○溝口幸治委員長 はい、貴重な意見ありがとうございます。

ほかにございませんか。

なければ、これもちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前11時7分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長